

鎌ヶ谷市施策評価表(事後)

施策の名称	331都市農業の育成		
施策のねらい (めざす姿)	農業と市民とのふれあいが強化し、農業が持続的に発展する中で農業生産が行われ、新鮮・安全・安心な食料が提供されています。また、農地の有する多面的機能からも本市の魅力づくりに貢献しています。		
基本目標	3「躍動感と魅力あふれる交流拠点都市」をめざして	施策担当マネージャー	市民生活部次長
政策	33活力ある産業を育成します	マネージャー氏名	斉藤 薫

I 改革・改善内容(=施策をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	援農ボランティアをさらに拡充し、担い手不足の農家の支援を進める。	③改革・改善内容	梨の援農ボランティアに加え、野菜の援農ボランティア講習を試験的に実施し、担い手不足の解消につながるか検証を行う。
②①に基づく取り組み結果	梨の援農ボランティアを育成し、担い手不足の一部解消につながった。また、拡充策として新たに野菜のボランティアの育成についても検討を行った。		

II 施策の目的・概要

①目的	対象	農業経営者	意図(対象をどうするのか)	持続的な発展を促す
②施策の概要	都市と農業の共存を図るとともに、経営基盤を強化することで競争力の向上につなげる。			
③環境分析(状況変化や今後の見込み・市民意向など)	都市化の拡大に伴い、営農の継続が困難となっている。こうした要因により、農業従事者の高齢化や後継者不足が進んでおり、農業従事者が減少傾向にある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27～28年度の施策の成果	全国的に農地・農家が減少している中で、成果指標を概ね維持することができた。						
②施策成果指標	指標名称		単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	目標値(32年度)
	i	販売農家数	戸	-	295	-	330
	ii	経営耕地面積	a	-	35,322	-	37,500
	iii						
③基本事業成果指標	i	認定農業者数	人	45	45	51	50
	ii	新規就農者数	人	3	0	4	1
	iii	特定農業団体数	団体	0	0	0	1
	iv	耕作放棄地面積	ha	2.7	2.0	2.1	1.4
	v	なし剪定枝リサイクル率	%	18.4	31.0	37.1	18.0
	vi	ブランド化認定数	件	7	7	7	8
	vii	市民農園利用者数	人	133	151	151	171
	viii	援農ボランティア数	人	54	56	64	70
	ix						
④施策の事業費	平成27年度決算	平成28年度決算	市民一人あたり事業費(28年度決算)		平成29年度予算		
事業費(千円)	75,830	90,139	(単位:円) 826円		69,037		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	農産物のブランド化など産地間競争が激しくなっており、そうした中で農業を持続していくために、より一層特色のある生産・経営を行う必要がある。		
②総合評価	2概ね達成	③総合評価の理由	全国的に農地・農家が減少している中で、成果指標を概ね維持することができた。

V 今後の方向性

①成果の方向性	↑向上	②コストの方向性	↑増加
③特に重点化する事務事業	鎌ヶ谷農産物ブランド育成に要する経費		
④上記方向性の説明	「梨のインターネット販売」を中心とした事業に取り組むことで、鎌ヶ谷産農産物のブランド化や販路拡大を推進し、農業経営基盤の強化を図る。		